

参考文献

- 秋元実治 (2004) 「文法化」『コーパスに基づく言語研究—文法化を中心に』ひつじ書房
- 天野みどり (1993) 「文脈照応「その」の名詞句解釈に果たす役割。」『小松英雄博士退官記念 日本語学論集』三省堂 (764-753)
- 庵功雄 (1994a) 「結束性の観点からみた文脈指示：文脈指示に対するひとつの接近法」『日本学報』13 大阪大学文学部日本学研究室 (31-42)
- (1994b) 「定性に関する一考察：定情報という概念について」『現代日本語研究』1 大阪大学文学部日本学科現代日本語講座 (40-56)
- (1995a) 「コノとソノ—文脈指示の二用法」『日本語類義表現の文法』くろしお (619-631)
- (1995b) 「語彙的意味に基づく結束性について：名詞の項構造との関連から」『現代日本語研究 2』(85-102)
- (1996a) 「指示と代用：文脈指示における指示表現の機能の違い」『現代日本語研究 3』(73-91)
- (1996b) 「「それが」とテキストの構造—接続詞と指示詞の関係に関する一考察—」『阪大日本語研究 8』(29-44)
- (1997) 『日本語のテキストの結束性の研究—指示表現と名詞の機能を中心に—』大阪大学博士論文
- (2007) 『日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエー・ネットワーク
- 伊藤晃 (2001) 「接続表現としての「それも」—情報付加のあり方と文法化の可能性—」『立命館文学』568 立命館大学 (307-333)
- 大堀寿夫 (2004) 「文法化の広がりと問題点」『言語』33-4
- 柏崎雅世 (1995) 「「そう」で導かれモダリティーを伴った応答文について」『日本語の研究と教育』(窪田富男教授退官記念論文集) 専門教育出版 (225-248)
- 加藤重弘 (2004) 『シリーズ・日本語のしくみを探る 日本語語用論のしくみ』研究社
- 神尾昭雄 (1990) 『情報の縄張り理論—言語の機能的分析』大修館書店
- 河上誓作 (1996) 『認知言語学の基礎』研究社
- 金水敏・田窪行則 (1990) 「談話管理からみた日本語の指示詞」『日本語研究資料集【第一期第七巻】指示詞』ひつじ書房
- (1992) 「日本語指示詞研究史から／へ」『日本語研究資料集【第一期第七巻】指示詞』ひつじ書房

- 久野暲 (1973a) 『日本文法研究』 大修館書房 (185-190)
- (1973b) 「コ・ソ・ア『日本文法研究』より」『日本語研究資料集【第一期第七巻】指示詞』 ひつじ書房
- 黒田成幸 (1979) 「(コ)・ソ・アについて」『日本語研究資料集【第一期第七巻】指示詞』 ひつじ書房
- 建石始 (2005) 「談話的機能の観点から見た後方照応」『日本語教育 124』
- 阪田雪子 (1971) 「指示語『コ・ソ・ア』の機能について」『日本語研究資料集【第一期第七巻】指示詞』 ひつじ書房
- 佐久間鼎 (1951a) 『現代日本語の表現と語法』(くろしお出版より復刊=1983 復刊第一刷) くろしお (2-43)
- (1951b) 「指示の場と指す語—『人称代名詞』と『コソアド』」『日本語研究資料集【第一期第七巻】指示詞』 ひつじ書房 (32-34)
- 佐久間まゆみ (2002) 「接続詞・指示詞と文連鎖」野田尚史編『複文と談話』 岩波書店
- 定延利之 (2002) 「「うん」と「そう」に意味はあるか」定延利之編『「うん」と「そう」の言語学』 ひつじ書房 (75-112)
- 定延利之・田窪則行 (1995) 「談話における心的操作のモニター機構—心的操作標識「ええと」「あの(ー)」」『言語研究 108』 (74-92)
- 鈴木一彦 (1973) 「感動詞とは何か」鈴木一彦・林巨樹編『品詞別日本語文法 講座 6 接続詞・感動詞』 明治書院 (137-175)
- 正保勇 (1981) 「「コソア」の体」『日本語教育指導参考書 8 日本語の指示詞』 国立国語研究所
- 田窪則行・金水敏 (1997) 「応答詞・感動詞の談話機能」『文法と音声』 くろしお (257-279)
- (2000) 「複数の心的領域による談話管理」坂原茂(編)『認知言語学の発展』 ひつじ書房 (251-280)
- 寺津典子 (1983) 「言語理論と認知科学」『認知科学への招待』 研究社
- 辻幸夫 (2002) 『認知言語学キーワード事典』 研究社
- 堤良一 (1998) 「文脈指示における「その／この」の言い換えについて—名詞の導入する変項に注目した一分析」『日本語・日本文化研究』 8 (43-56) 大阪外国語大学日本語講座
- (2002a) 「文脈指示における指示詞の使い分けについて」『言語研究』 122 (45-78)
- (2002b) 「指定モデルから見たア系列指示詞」『岡山大学文学部紀要』 38 (岡山大学文学部) (127-138)
- (2002c) 「指定指示と代行指示」『応用日本語研究』 創刊号 (応用日本語研究会) (44-61)
- 時枝誠記 (1950) 『日本文法 口語篇』 岩波書店

- 服部四郎 (1968) 「コレ・ソレ・アレと this, that」— 『英語基礎語彙研究』より
『日本語研究資料集【第一期第七巻】指示詞』 ひつじ書房
- 浜田麻里 (1993) 「ソレガについて」 『日本語国際センター紀要』 3 (57-69)
- (1995a) 「いわゆる添加の接続語について」 仁田義雄 (編) 『複文の研究 (下)』 くろしお (439-461)
- (1995b) 「ソシテとソレデとソレカラ—添加の接続詞—」 『日本語類義表現の文法 (下)』 くろしお出版 (575-582)
- 春木仁孝 (1991) 「指示対象の性格からみた日本語の指示詞—アノを中心に—」 『言語文化研究 17』 大阪大学
- 馬場俊臣 (1992) 「指示語の文脈展開機能」 『日本語学』 11-4 (33-40)
- (2006) 『日本語の文連接表現—指示、接続、反復』 おうふう
- ひげひろし (1985) 「そして」と「それから」 『教育国語 83』 (44-53)
- (1986) 「接続詞「そこで」「それで」」 『教育国語 86』 (46-59)
- (1987) 「「それで」「だから」「したがって」」 『教育国語 88』
- 比毛博 (1989) 「接続詞の記述的な研究」 『ことばの科学 2』 むぎ書房 (49-107)
- 日野資成 (2001) 『形成語の研究：文法化の理論—文法化の理論と応用』 九州大学出版会
- 日野資成訳、P. J. ホッパー、E. C. トラウゴット著 (2003) 『文法化』 九州大学出版会 (Hopper, Paul, and Elizabeth Closs Traugott (1993) Grammaticalization. Cambridge University Press)
- 堀口和吉 (1978) 「指示語の表現性」 『日本語・日本文化』 8 (大阪外国語大学 23-44)
- (1990) 「指示詞コ・ソ・アの表現」 日本語 Vol. 9
- 松本曜ら編 (2003) 『シリーズ認知言語学入門<第三巻>認知意味論』 大修館
- 三上章 (1955) 「現代語法新説」 刀江書局 (くろしろより復刊 1972) (170-189)
- (1970) 「コソアド抄—『文法小論集』より一部」 『日本語研究資料集【第一期第七巻】指示詞』 ひつじ書房 (35-37)
- メイナード・K・泉子 (1987) 「日米会話におけるあいづち表現」 『言語』 Vol. 16、No1 (88-92)
- 初山洋介・深田智 (2003) 「意味の拡張」 松本曜編 『シリーズ認知言語学入門 第三巻 認知意味論』 大修館書店
- 森田良行 (1973) 「感動詞の変遷」 鈴木一彦・林巨樹編 『品詞別日本語文法講座 6 接続詞・感動詞』 明治書院 (177-208)
- 森山卓郎 (1996) 「情動的感動詞考」 『語文』 65 大阪大学国語国文学会 (51-62)
- (2006) 「「添加」「累加」の接続詞の機能—「そして」「それから」などをめぐって」 益岡隆志・野田尚史・森山卓郎編 『日本語文法の新地平 (3) 複文・談話編』 くろしお (187-207)
- 森山卓郎・張敬茹 (2002) 「動作発動の感動詞「さあ」「それ」をめぐって—日

- 中対照的観点も含めて一」『日本語文法 2 巻 2 号』(128-143)
- 八木真生 (2006) 「「それは」／「これは」を伴う決まり文句の意味機能—「
ご苦労さま」と「それは／これはご苦労さま」を比較して」
『日本語教育 130 号』(130-139)
- 山口堯二 (1984) 「感動詞・間投詞・応答詞」『研究資料日本文法 第四巻』明
治書院 (126-157)
- 山梨正明 (1992) 『推論と照応』くろしお
—— (1993) 「格の複合スキーマモデル—格解釈のゆらぎと認知のメガニ
ズム」『日本語の格をめぐる』くろしお
—— (1995) 『認知文法論』ひつじ
- 山根智恵 (2002) 『日本語の談話におけるフィラー』くろしお
- 吉田妙子 (2004) 「指示詞コソアの振舞いの一貫性—縄張り理論の再検討—」
『台湾日本語教育論文集』8 (31-62)
—— (2005) 「対定型句におけるコソアドの振舞いと左右行列」『政大日本
研究第 2 号』(45-67)
- 吉本啓 (1992) 「日本語の指示詞コソアの体系」『日本語研究資料集【第一期第
七巻】指示詞』ひつじ書房 (105-122)
- 吉村公宏 (2004) 『はじめての認知言語学』研究社
- 盧濤 (2004) 「指示詞の複合とその周辺」影山太郎・岸本秀樹編『日本語の分
析と言語類型 柴谷方良教授還暦記念論文集』くろしお (93-108)
- デイヴィッド・リー著 宮浦国江訳 (2006) 『実例で学ぶ認知言語学』大修館
- George Lakoff (1987) *Women, Fire, and Dangerous things: What categories
Reveal about the Mind: The Unibersity of Chicago Press.* (池上嘉彦・
河上誓作 他訳／ (1993) 『認知意味論』紀伊国屋)
- Heine Bernd Urike Claudi and Friederike Hunemeyer (1991)
*Grammaticalization: A conceptual framework. Chicago: The Unibersity of
Chicago Press.*
- Langacker Ronald W. (1990) *Concept, image, and symbol: The cognitive basis
of grammar. Berlin/New York: Mouton de Gruyter*
- Traugott Elizabeth Closs (1989) *On the rise of epistemic meaning in
English: An example of subjectification in semantic change. In
Language 65. 31-55*
- Hopper Paul and Elizabeth Closs Tragott (1993) *Grammaticalization .
Cambrige Unibersity Press*

辞書

- 広辞苑 (第五版) 岩波書店
大辞泉 (増補・新装版 デジタル大辞泉) 小学館